



白崎金三さん
明治44年余呉町生まれ。
余呉町文化財専門委員。



山根茂子さん
大正7年余呉町上丹生生まれ。
農業の傍ら、学校・婦人会・老人会など各地で講演し、余呉町の風習を今に伝える。

ホウライサン

一般的には「蓬菜飾り」と言います。新年に三方に米・のしあわび・かちぐり等を載せて祝いものとする飾りのことです。

若水迎え

「若水くみ」とも言い、元旦または立春の日の早朝に水を汲む行事の事です。邪気を払う、といわれています。



ホウライサンの飾りつけ

山根茂子さんによれば、元旦は「もうか」と呼ぶ木綿で作った一つ紋の紋付を着た男性による「若水迎え」から始まります。「若水迎え」は、地域の暮らしを支える丹生川（高時川の地元名）の井戸端（各家が利用する川端のこと）に洗米とユズリハを供え、若水を手桶に汲む行事のことで、現在では水道の蛇口の前でやるところもあります。この若水で雑煮をつくりまします。「餅は「はまぐり」と呼ばれる丸餅です。雑煮はみそ味が中心で、具はゴイモ、ニンジン、大根、昆布、ゴボウなどです。焼いた餅はみそと砂糖のタレで食べるのが一般的です。よもぎ餅もよく食べますよ」と白崎さん。

「かつては正月3日間は女性が朝寝、男性が早起きするのが習いでした。男性は「雑煮、にげたぞ（煮えたぞ）。起きいよ」と女性を起し、床の間の「山の神」に二

つ重ねの餅を四つ、オクドさんのお釜に四つ重ねの餅をお供えして、山の恵みと日々の食べ物に感謝したものです。雑煮は元旦だけ。正月の2日にはもう普通の食事に戻りますが、作るのにはやはり男性でした。食後はすぐに「山参り」です。栗の木で自作した御幣、フリカケ（石2個をくくったもの）、洗米と煮豆を持って山へ。フリカケを高くほうり上げ、雪に御幣を立て、その前に米とマメを供えます。その帰りには柴を刈ってその家の男性の人数分だけ束を作り持ち帰るのがしきたりでした。この柴はサイタテ（田植えの始め）の祝いの赤飯を焚くときに使ったものです」と山根さん。

つ重ねの餅を四つ、オクドさんのお釜に四つ重ねの餅をお供えして、山の恵みと日々の食べ物に感謝したものです。雑煮は元旦だけ。正月の2日にはもう普通の食事に戻りますが、作るのにはやはり男性でした。食後はすぐに「山参り」です。栗の木で自作した御幣、フリカケ（石2個をくくったもの）、洗米と煮豆を持って山へ。フリカケを高くほうり上げ、雪に御幣を立て、その前に米とマメを供えます。その帰りには柴を刈ってその家の男性の人数分だけ束を作り持ち帰るのがしきたりでした。この柴はサイタテ（田植えの始め）の祝いの赤飯を焚くときに使ったものです」と山根さん。



御幣 (写真上) とフリカケ (写真下)

先人たちの知恵や風習を大切に

もちろん、余呉に伝わるこれらの年末年始準備の準備は、25日の「米かし」から

ホウライサンの飾りつけ

- ① 松、ユズリハ、昆布、炭、水引きをそろえます。
- ②～④ ならべた炭、ユズリハ、松を、順次、昆布で巻いてゆきます。
- ⑤ 巻き終わったら、昆布に水引をくくり結びます。
- ⑥ 出来上がり。

山々の恵みと共に迎える 湖北のお正月

～余呉町に伝わる年末年始のしつらえ～

時代とともに年々薄まる地方色や地域の慣わし。しかしその中であって、湖北の地は、独自の暮らしと文化が今日もなお色濃く残っているといわれます。今回は、余呉町に伝わる年末年始のしつらえについて、同地の風習に詳しく各地で講演もされている山根茂子さんと余呉町文化財専門委員の白崎金三さんにお話をうかがいました。

お正月の準備は、25日の「米かし」から

余呉の年末年始の準備は12月25日から始まります。餅つきに備えた「米かし」に着手するのがこの日で、地元ではこの日を「正月始め」と呼ぶそうです。

「米かしの終わると、私らのところでは30日に餅をつきます。29日は苦餅といって避けます。ただ一年分の苦をすべてつきつぷすといって、29日に餅をつくるところもあるんですよ。餅をつき終ると「餅つきの祝い」をします。臼をきれいに洗い、四つ折りのムシロの上に置き、室内に祭ります。白の中には、山から取ってきた松（三階松）とユズリハを入れ、稲穂で作った「箒」とワラ、それに竹の皮で作った「なべつかみ」を飾ります。ムシロの横には粉をひく臼も添えて。夕方になると女性が「松のめし」と呼ぶご飯を炊いて臼に供え、かわらけの灯明を灯して無事餅つきが終わったことに感謝をします」と山根さん。



餅つきの祝い

年始準備の主役は大晦日のホウライサンづくり

余呉の大晦日の朝は、ワラを打ち、しめな縫いをするので始まります。昔は男性だけで作るのが慣わしだったとのこと。このしめなわで「重ねた松の枝とユズリハ」をくくったものが、門松となります。この地域の門松には特徴があるそうです。「余呉では松の幹ではなく松の枝を使いま

茶わん祭の館

余呉町上丹生3224番地
Tel: 07498868022
開館日/年末・年始を除き年中無休
開館時間/午前9時30分～午後4時30分

*今回の撮影では、「茶わん祭の館」のご協力をいただきました。「茶わん祭の館」は1998年4月11日にオープンした余呉町の暮らしや祭、伝統文化を紹介する文化施設です。

しかし先人たちが伝えられてきた行事や風習には、その地方独自の暮らしの知恵や貴重な文化も数多く残されているのも事実です。お二人のお話をうかがっているうちに、余呉に伝わる伝統的なしつらえばかりではなく、各地方、各地域に残る伝統行事、さらには私たちの各家庭に代々伝わってきた慣わしを再度見つけ、それらを現代の生活に上手に取り入れることの大切さ、味わい深さを再発見できたように思えます。

ホウライサン / 撮影場所: 茶わん祭の館